

# 担い手通信

J A バンクは地域の担い手を応援します



今月の話題

## トマトCO<sub>2</sub>施用

**投資額に合わせ3タイプ**

重県農業研究所が作成した「トマト栽培のための  
CO<sub>2</sub>施用マニュアル」が好評です。二酸化炭素  
(CO<sub>2</sub>) 施用の効果が農家に知られるようになつたこと  
もあり、全国から多くの問い合わせがあるといいます。初  
期投資額の違いで、施用方法や装備する機器を分けて紹  
介するなど「幅広い農家に利用できるようにしたことが  
受けたのでは」と同研究所ではみています。

マニュアルは、2017年  
夏に農水省事業で研究して  
きた成果をまとめました。

給源になつてゐることなど実態を説明しています。それを基に具体的な施用法と事例を紹介します。

施用法は「お手軽タイプ」「標準タイプ」「こだわりタイプ」の三つの類型に分けて説



「は20アル一から1タックル規模で初期投資額は45万～1000万円。温度や天窓などとも連動させます。

施設内を外気のCO<sub>2</sub>濃度と同じ程度にする「ゼロ濃度差施用」の考え方も紹介します。

マニュアルはA4判で30ページ（表紙を除く）。印刷の許可申請をメールで申し込めば、マニュアルのデータが送られます。「特に宣伝はしていない」（同研究所）が、県外からの問い合わせも多く、予想以上の

今が旬  
この言葉

農福連携

農業と福祉双方の課題を解決し、利益をもたらす農福連携は、農産物の生産現場に障害のある人たちを働き手として受け入れ、自立を支援する取り組みとして注目されています。高齢化や過疎化などで働き手の確保が課題の農業分野では、JAが農家と働き手を結ぶ事業を始めるケースなど、障害者の活躍の場をJAがつくる事例も増えています。

申し込みがあつたといいます。  
3月末までの申し込み分  
は、施設園芸に取り組む農  
業法人や、企業などを含め  
129件。合計で790部  
の印刷申請がありました。今  
も同研究所ホームページ  
(HP)で申し込みを受け付  
けています。

宮農技術  
Pick up

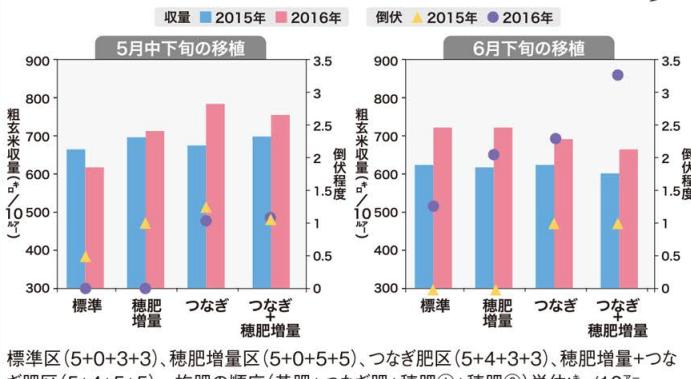
このコーナーは、三重県農業研究所の「研究成果情報」に基づき制作し、県内に広く研究成果を紹介します。

三 重畠農業研究所は、飼料用米の知事特認品種である「あきだわら」の倒伏を防ぎ、収量を増やす栽培方法を発表しました。ポイントは5月中下旬に移植を行い、穂肥の量を増やすこととしています。

さらには同研究所では多収の実現のためには多肥栽培で発病が助長される、いもち病や紋枯病の発生を防ぐため、予防的の防除が大切だとしています。

で、収量と倒伏の程度を比較しました。図5月中下旬に移植した穂肥増量区では倒伏が小さく、多収になりますが、6月下旬の移植では倒伏が大きく、増肥効果が期待できず、収量の増加が見込めません。

## 移植時期・施肥方法の違いが「あきだわら」の粗玄米収量・倒伏に与える影響



お問い合わせ

三重県農業研究所 農産研究課 ☎ 0598-42-6359



- ◆トラクターなどの農業用機械の購入資金
  - ◆栽培用ハウス・畜舎などの農業用施設の建設資金
  - ◆その他の農業経営に必要な資金

実質  
保証料

# 農業經營資金

対象期間／平成30年4月2日～平成31年3月29日

農業者の皆様のご負担金利を  
JAバンク利子補給制度 3年間と  
当JA金利引き下げ 2年間 措置の対象となります。

= 実質  
年 **0.2%** 5年間

詳しくは、お近くのJAバンク窓口までお問い合わせください。<http://www.jamie.or.jp/jabanking/agri/>

※JAバンク利子補給・  
当JA金利引き下げ後の  
ご負担金利は0.2%を下  
回らないように調整され

ます。  
※イメージは実際とは異なる場合がございます。  
詳しくはお近くのJAバンクまでお問い合わせください。

※JAバンク保証料助成  
により、実質保証料が0  
円となります。

